

会議名	第8回港区まちづくりマスタープラン検討委員会
開催日時	平成29年1月24日（木曜日）午後6時30分から8時30分まで
開催場所	区役所9階 研修室
委員	<p>（出席者）</p> <p>学識経験者委員：中井委員長、服部委員、桑田委員、市古委員、森本委員、杉浦委員、羽生委員</p> <p>区民委員：今村委員、SUH委員、保坂委員、中島委員、堀場委員、大本委員、堀江委員</p> <p>行政委員：小柳津副区長</p>
事務局	波多野街づくり支援部長・芝地区総合支所長（兼務）、野澤都市計画課長、齊藤街づくり計画担当係長
傍聴者	1人
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 報告</p> <p>（1）前回の検討委員会以降の経過について</p> <p>（2）改定素案についてのご意見募集結果について</p> <p>3 議題</p> <p>港区まちづくりマスタープラン 改定案について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
配付資料	<p>【配付資料】</p> <p>資料1 改定の検討スケジュール</p> <p>資料2 「港区まちづくりマスタープラン 改定素案」についてのご意見募集結果（案）</p> <p>資料3 改定素案からの主な変更点</p> <p>資料4 港区まちづくりマスタープラン 改定案（案）</p> <p>資料5 港区まちづくりマスタープラン 改定案 概要版（案）</p> <p>参考資料 第7回検討委員会 議事要旨</p>
会議の結果及び主要な発言	
委員長 事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 報告</p> <p>●前回の検討委員会以降の経過について</p> <p>●改定素案についてのご意見募集結果について</p> <p>改定素案についての意見は148件あったとのことだが、これは他の計画策定時などと比較してどうなのか。</p> <p>件数としてはかなり多い。</p>
委員	<p>3. 議題</p> <p>港区まちづくりマスタープラン 改定案について</p> <p>●改定案（案）について</p> <p>方針5の67ページの凡例の計測震度のところは、「震度6弱」「震度6強」など震度の区切りを追記した方が親切である。</p> <p>70ページの帰宅困難者対策の推進の項目に「地域と開発事業者…」という表現があるが、主となるのは行政と交通事業者である。エリア防災の主眼からすると、表現を見直した方が適切ではないか。</p>
委員	100ページ芝地区の目標の3つめは、タイトルに「商店のにぎわい」とある

事務局	<p>がその下の文中には書かれていない。また、商店と住宅の「共存」という表現は適切であるか。</p> <p>ふさわしい表現を検討する。文章の趣旨としては、地域の近隣型商店街と周辺の住宅街がともにあるということ表現したい。</p>
委員	<p>130 ページ高輪地区の目標の1つめは、ここだけ「ほのかに」という曖昧な表現が用いられていることが気になる。</p>
委員	<p>43 ページのミクストユースの説明は、英語の文献からとったということもあると思うが、「ミクストユースがニューアーバニズムから広がった」というのは誤認識ではないか。80年代前半に都心部の再開発、ボストンのコープリープレイス、サンディエゴのホートンプラザ、ボルティモアのインナーハーバーなどが行われた際に、ミクストユースというコンセプトがつけられた。それはニューアーバニズムより先である。そこは勉強して書き直していただきたい。特に気になるのは最後のパラグラフ。ニューアーバニズムのコンセプトとしては、こういったミッドタウンのようなものはつくりたくないはずである。</p>
委員長	<p>事務局は、服部先生、桑田先生と相談して、内容を検討すること。</p>
委員	<p>43 ページのコラムだが、ぱっと見たときに42 ページの方針図と連続した内容に見えてしまう。「コラム」等、タイトルが書かれているとわかりやすい。参考としての情報提供であることがわかるよう工夫していただきたい。</p>
委員長	<p>140 ページ芝浦港南地区の目標の5つめは、活気ある魅力的な「居住環境」とあるが、「居住」だけにしぼらない方がよいのではないか。</p>
事務局	<p>修正する。</p>
委員	<p>120 ページ赤坂地区の目標の2つめの「気品とにぎわい」という表現に違和感がある。</p> <p>123 ページの緑と水の魅力をいかした…の項目に「公園等と同等の機能を有するオープンスペース…」とあるが、これは何を意図しているのか。</p>
事務局	<p>「気品とにぎわい」という表現は青山通り周辺をイメージしたものである。まちづくりガイドラインでも掲げている表現のためここでも使用している。2点目については、民地の中にある公開空地を表現している。</p>
委員長	<p>「公開空地等」という表現にしてはどうか。</p>
委員	<p>110 ページ麻布地区の目標の最後に「国際色豊かで…」とあるが、一番下に書かれていることに違和感がある。例えば2つめの「落ち着いた住宅地と…」などは、どこの地区にも書いてあるような内容である。麻布地区ならではの特徴である国際色豊かな雰囲気前面に出していただきたい。</p>
委員長	<p>書かれている目標の順番はどのように決められているのか。</p>
事務局	<p>8つの方針の並びになっている。地区ごとの重みづけについては考えていなかった。概要版になるとさらに違和感があるため、並び方は検討する。</p>
委員長	<p>各目標の小見出しの内容もよく考えていただきたい。</p>
委員	<p>3 ページの計画の位置付けに地区版計画書（基本計画）のことが書かれていないが、地区版計画書があるのは港区の特徴である。地区別まちづくりの方針とどういった関係にあるのかは伝えられるとよいのではないか。</p> <p>もう1点、39 ページの地域特性の項目の2つめの○。隣り合う地域区分の境界域における土地利用の配慮とあるが、どういった仕組みが背景にあるのか。</p>
事務局	<p>1点めについては書き方を工夫する。2点めについて、この文章はパブコメを受けて追記したものである。東京都の都市計画審議会答申の理念の文章を参考に記載したが、具体的に誘導する制度のイメージはできていない。理念を書いている段階に留まっている。</p>
委員	<p>誘導するのに施策がないというのでは弱く感じられる。</p>

委員長	ギャップが生まれないようにうまく用途地域を指定するというくらいしかできないのではないかと。用途地域の中での誘導は難しい。
事務局	土地利用転換を行う場合のことを書いており、用途地域のギャップを…という意図ではない。ここは表現を見直す。
委員	にぎわいと落ち着きが隣り合っているのが港区の特徴である。パブコメで「おかしい」と言われたことにそのまま対応することが果たしてよいのか。出された意見を全て真に受けるのではなく、区としての考えをきちんと説明すればよいのではないかと。
委員	50 ページのピラミッドの下に書かれている自転車ネットワークについて、整備するのは区道の一部という理解でよいか。また、国道・都道については全て整備することになっているのか。
委員	93 ページの方針図に「地域のランドマーク」という凡例があるが、意図することがわかりにくく感じる。「主な観光スポット」などの表現の方がよいのではないかと。
委員	63 ページの主な取組の最初に「斜面緑地の保全」が書かれていることに違和感がある。斜面緑地が重要なのは、ここよりも 59 ページの軸のところ。景観に関しては他のものも重要である。78 ページの景観の主な取組でも、冒頭に斜面緑地が書かれていることに違和感がある。景観の冒頭にくるトピックとしては相応しくないのではないかと。斜面緑地だけがやたらとピックアップされているように感じてしまう。63 ページ左の写真も、もう少し連続性がわかるものだとよい。
委員長	78 ページは地形の話なのでまあよいのではという気もするが、指摘を踏まえ検討していただきたい。
委員	●改定案 概要版（案）について 概要版の将来都市像の図が本編と異なっている。ここは計画の重要な部分であるため、色使いやフォントは本編と合わせた方がよい。
委員	概要版の地区別まちづくりの方針について、タイトルは「方針」であるのに書かれている中身は目標になっている。タイトルと中身との整合が取れていない。
委員長	タイトルの後ろに（第〇章）と入れるのはどうか。また、タイトルは「目標」としてもよさそうである。本編の対応するページを入れ込み始めると、概要版としての意味がなくなりそうではある。
委員	概要版のページ数が、素案のときより減ったのには理由があるのか。
事務局	前はパブコメ用として作成した。今回は啓発用のパンフレットのような位置付けのものとして作成している。
委員	誰に向けて作られたパンフレットなのかがよくわからない。図が小さすぎて本当にこれで見られるのかも疑問である。本編への誘導を促すのであれば、インデックス機能は意識した方がよいのではないかと。また、地区別まちづくりの方針があることを示したいのであれば、目標を羅列するだけではない表現を工夫した方がよい。
委員長	概要版として、この形が最適かということも疑問である。ページ数のしぼりのために内容が制限されてしまっている。「詳細図は HP で」などの文言も記載することを検討してはどうか。
委員	地区別まちづくりの方針の中身については、何を入れるべきかももう一度検討するのもよいのではないかと。文章を数行ずつ書くことを考えるのもよさそうである。
	4. その他

委員	<p>●各委員より一言</p> <p>この港区まちづくりマスタープランは、今回の改定でとても密度が高くなり、内容としても非常に充実したものになったと思っています。先ほども少しお話ししましたが、今後は地区版の基本計画など総合支所との連携をさらに深めながら、このまちづくりマスタープランのボトムアップが進み、多くの方々に利用されていくとよいなと思っています。是非がんばっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
委員	<p>都市防災の視点からは、東日本大震災をはさんでのこの10年で、現行のまちづくりマスタープランにはない重要な切口を2つ入れていただいたことがポイントだと思います。1つは駅前滞留、帰宅困難者対策についてですが、現行のまちづくりマスタープランでは文言として明確に書かれてはいなかったもので、今回位置付けていただきました。これは区民の方々の不安やニーズにも合致したものかなと思っています。もう1つは、被害を0にすることはできないということで、災害後しなやかに回復するコミュニティをつくっていくということ。これは災害にきちんと向き合うということであり、「回復力がある」という表現を入れていただいたことが、この10年間で踏まえた重要なポイントだったかと思っています。もちろん帰宅困難者対策にしても事前復興・回復力にしても、都市側の視点だけで解決できるものではありませんが、まちづくりマスタープランに記載いただいたということが大きな前進だと思っています。</p>
委員	<p>主に交通の視点からいろいろとご意見を言わせていただきましたが、正直なところ、交通に関してはいろいろな問題がある中で、区ができる範囲はなかなか限定的になってしまいます。東京都が行う仕事、民間交通事業者が行う仕事がある中で、比較的全てを網羅的に書いていただきながら、各交通機関の役割等々も細かく記載いただき、私個人としては非常によいものができたのではないかと思います。今後、ここに書かれたことを行っていこうとすると、各機関との調整が必ず必要になります。そのあたりを引き続きがんばっていただけるとよいなと思っています。</p>
委員	<p>実質1年半ほどの期間になりますが、貴重な機会をいただきましてありがとうございました。いろいろな分野の先生方、区民委員の方々、区の職員の方々と様々な議論をさせていただいたことが、私にとってよい経験となりました。緑・水、景観という分野は、具体的にどういった価値があるのかを数値化して測れるものではないため、その点が実現させていく上でとても難しいと感じています。都市生活の質にも非常に大きく関わる分野ですので、是非今後も区民の方々と一緒になって、充実させていっていただければと思います。日本を代表し、東京都を代表する港区として、他の自治体を引っ張っていくような、先進的な取組を充実させていっていただきたいと思います。</p>
委員	<p>今回皆様とご一緒させていただき、大変勉強させていただきました。ありがとうございました。特にこの港区まちづくりマスタープラン検討委員会で驚いたのは、区民委員の方々が非常に積極的かつ意識が高く、知識も豊富にお持ちであるということでした。区民の皆様が感じられている日頃の区内の課題など、我々ではわかり得ないところをご指摘いただいたことが、今回参加させていただいた中で非常によかった点でありました。私自身はもっぱら観光・国際化という分野を担当するというので、いろいろとご</p>

	<p>意見を言わせていただきましたが、この分野はマスタープランの中に何を位置付けるかが非常に難しく、都市をどうつくっていくと観光のためによくなるか、もしくは観光を良くしていくことがどのように都市づくりにつながるかというところは、文章に表現しづらいところです。今回いろいろと申し上げた中で、第4章の分野別の「国際化・観光・文化」の方針以外にも、実は国際化・観光・文化の視点から見て重要な点をたくさんちりばめており、それら全てが結果的には観光振興や人々の豊かな活動につながるのだということを、事務局とはずいぶん議論をさせていただきました。良い器をつくらないことには、その上で行われる良い活動も生まれません。観光というのはいわば最後の化粧の部分で、良い器、良い活動があり、その上で外の人に対しそれを売っていくという面があります。今回、第6章でも取組の体制づくりや進め方についてかなり議論があったように、区内の各所に今よりも外から人が来てくれる、認めてくれる、評価をしてくれるといったことが価値になり、総合的に良いまちができていくのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私はこういった委員会に初めて関わらせていただきましたが、大変勉強になることがたくさんありました。自分が住んでいる港区の計画、マスタープランというものが、このようにしてつくられていくのだということが本当に勉強になりました。これから先、まちづくりマスタープランに示されたことがどれだけ実現されていくのかということは、実際の区民としては不安な部分もありますが、それを実現させていけるような仕組みであったり、区民としての働き方といいますか取組を行っていかないことには実現はないと思いますので、そういったことがこれからできればいいなと思っています。ありがとうございました。</p>
<p>委員</p>	<p>2年間貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。私自身は、この港区まちづくりマスタープラン検討委員会を通して水辺のことがばかりを話してしまい、すごく視野の狭い人間だったなと反省しております。この2年間の私自身のことを振り返らせていただきますと、委員になった当初は芝浦の賃貸マンションに住んでいたのですが、この検討委員会に参加させていただく中で、このまま港区に定住したいという思いが強くなり、えいやでマンションを購入してしまいました。まちづくりマスタープランは計画としての大きな枠組みがある中で、それを実現させていくためには、区民であったり事業を行う者が、そこでしっかりやっついていかなくてはいけないと思っています。今後はこういった活動を含め、区民参画組織を通してなど、まちづくりマスタープランを区民としてしっかり実現させていきたいと思っています。また、少しではありますが、一企業人としてもまちづくりに携わらせていただいておりますので、企業人としてもまちづくりマスタープランを実現できるような活動を、微力ではありますが少しでも貢献できればという思いを持ちながら、一日一日がんばっていかれたらなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>私はこの10年間、港区の区民参画組織に参加し、いろいろと地域活動を行ってきました。活動を通してそれなりに勉強はしてきましたが、この1年半、まちづくりマスタープラン検討委員会のメンバーに参加することで、まちづくりというものを芝浦港南地区から港区全体という広い視野で、体系的に考えさせてくれるよい勉強の機会をいただいたと思っています。港区区内では、これから大きな開発がいくつも計画されているようですが、ま</p>

委員	<p>ちづくりというのはなかなか港区だけではできないこともたくさんあります。難しいこともあるとは思いますが、区も区民も力を合わせ、お互いが持つ力をしっかりと出して、まちづくりを進められるとよいなと思っています。最後に、パブリックコメントの意見に「検討には税金をどれくらい使うのか」という質問がありまして、私自身はその項目に大変興味を持ちました。はっきりとしたお答えは書かれていなかったのですが、このまちづくりマスタープランが、結果的に税金を有効に活用できたというものになるとよいなと思います。いろいろな経験をさせていただきありがとうございました。</p> <p>2年間、皆様どうもありがとうございました。力不足だったとは思いますがありがとうございます。今回で検討委員会を終えるにあたり、2点ほど感じたことがあります。まず1点目は、このまちづくりマスタープランはあくまでもプランでしかなく、まちをつくっていくのはそこで生活をしている私たちであったり、働く人たちであったりということを考えると、このマスタープランが多くの人目に触れるものになってほしいなと思っています。行政の計画は文字数も非常に多いことから、そういったところも本当は改善していきながら、知識のある人だけでなく誰もがわかりやすいものにしていくことが重要だと思います。そして、行政の施設に限らず、多様な場所にまちづくりマスタープランの概要版が置かれるなどの工夫をし、そこで生活する人々の「自分たちのまちだ」という意識が高まるような方向に、このまちづくりマスタープランが活用されていってほしいなと思いました。もう1点は、実は私自身この2年の間に、大本さんとは違って港区から離れてしまいました。ただ、隣の区から初めて港区を見るという経験をさせていただいて、些細なことではありますが、「この橋は協働推進課…連絡先は…」 「ここを走ると〇kmです…」などと書いてあったことに気づき、このことからまちの作り手を感じる、作り手の顔が見えるということが非常に大事なのだと思いました。港区はグローバルなまちで、これからどんどん大きくなっていくと、ローカルな部分がだんだん見えなくなってしまいうことも考えられます。本来、まちはローカルな部分をたくさん持っており、その良さを出していくことが必要で、意識することが大事なのではないかと、引っ越してみているところではあります。</p>
委員	<p>私は赤坂に住んでおり、普段は赤坂地区のことしか考えていませんでした。このまちづくりマスタープラン検討委員会に参加させていただき、港区全体のことを考えるという経験をしたことで、思ったより港区は大きいということを知るとともに、専門家の先生方の意見を聞く中でたくさんの新たな発見がありました。私は建築を仕事としておりますので、この検討委員会をきっかけに港区でどのようなプロジェクトが行われるのかを調べるようになり、そのことがとても楽しくなりました。今後も、やはり赤坂地区を重点的にということではありますが、小さなことから区のまちづくりを見守っていきたいなと思っています。この2年間本当にありがとうございました。</p>
委員	<p>2年間貴重な機会をいただきありがとうございました。このまちづくりマスタープラン検討委員会は、いろいろと勉強になることばかりでした。皆様がすでにおっしゃっていることなのですが、このまちづくりマスタープランは当初に比べると本当に密度も高くなり、美しいものに仕上がったと思いますので、できるだけ多くの人に見ていただきたいと思っています。</p>

	<p>また、まちづくりマスタープランのよりやさしいバージョン、子どもバージョンなどにより、区内の子どもたちが小学校の授業の中で、このマスタープランを読んで勉強する時間を持つのもよいのではないかと思います。今回のプロジェクトに関わらせていただくことで、私自身港区に非常に愛着が湧いたこともあり、これまでは麻布地区のことばかりだったのが、もう一つ上の視点として港区全体を見られるようになりました。また、検討委員会では専門家の先生方の話を聞いたことで、本当にいろいろなことが勉強になり、港区がますます好きになるとともに、自分の子どもにも港区についていろいろなことを語れるようになったことをとても誇りに思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>私も2年間どうもありがとうございました。前にも少しお話したかもしれないのですが、お手元にあります平成19年4月のまちづくりマスタープランのときにも区民委員として関わらせていただき、名前が載っております。この中で区の職員の方を除けば、2つのマスタープランの策定に関われるという非常に光栄な機会をいただき、まずはそのことに感謝いたします。現行のまちづくりマスタープランを見ておりましたら、内容も厚みも今回のものの方が非常に深められており、それには総合支所制により住民参画が進み、住民の方々の気持ちやまちへの思いが反映されるようになったことが大きく影響していると感じ、感慨深いものを覚えています。現行のまちづくりマスタープランにも協働に関することは入れていただきましたが、その実績が10年間で上がってきているのではないかと日々感じるとともに、私個人としては、若い世代の方々に次のまちをどうしたいかということ、またこの先の10年後に考えてもらえるような礎をこれからつくっていただきたいなと思います。私も若い人たちに、できるだけいろいろなことを伝えていけるようにと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>2年間どうもありがとうございました。私は港区内の大学に勤めておりますが、皆様のように港区に住むということはなかなか難しいのが実情です。ただ、専門家という立場ではありますが、港区の魚藍の商店街にゼミの教室のようなものを置かせていただいております、そういった意味ではある程度住民の視点でも港区の都市の問題やまちづくりにおける課題などを認識しておりましたので、このようなまちづくりマスタープランの検討委員会に委員という立場で参加させていただけたことは大変ありがたいことだと思っています。マスタープランを策定する過程には、通常、アライバイづくりのような面があると思うのですが、この港区のまちづくりマスタープランは、何と言いますか本気でつくられています。アライバイというのはどこでも似たようなものがつくられますが、今回のまちづくりマスタープランは、非常にユニークで港区の特徴を反映させたものとなったことが印象に残りました。個人的には非常に立派なマスタープランになったと思うのですが、そこには委員の方々の意識の高さに加え、港区職員の方々のアライバイづくりにしない姿勢と、委員長の仕事の良さがあったのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>まずは委員長として、8回の進行にご協力いただいたことに加え、皆様の闊達なご意見により結果としてなかなか良いものができたと思っていますので、感謝申し上げます。事務局やコンサルの皆様も大変だったとは思いますが、ご苦労様でした。それから、私もいろいろなところでマスタープラン策定のお手伝いはさせていただいておりますが、「先をど</p>

のくらい読むか」「こんなことが起きるんじゃないか」ということをどこまで折り込んでおくかがプランづくりの1つのポイントかと思っております、できるだけそういったことは心がけているのですが、あまりがちがちにしすぎるとうまくいかない。かといってゆるくしすぎてしまうと、何でもありの世界になってしまう。そのあたりの塩梅をどうつけていくかということが、私の役割であったのではと思っておりました。おそらく、このまちづくりマスタープランに一般的に書かれていることは粛々と実現されると思いますが、「考えてもいなかった」「思いもよらなかった」ということが、実際には起こると思うんです。特に港区の場合は、他区に比べ、より高い頻度でそういったことが起こり得る場所であると思います。マスタープランの真価は、そういったことが起こったときに、このプランをどう使ってもらえるかということで問われるのだらうと思っております。是非、このまちづくりマスタープランを港区のまちづくりに関わる国や都、区など行政の皆様は今一度読んでいただき、皆様が思いを込めたことを受け止めた上で、想定外のことが起きた場合には原点に立ち戻り、いろいろなことを判断していただければと思っております。2年間どうもありがとうございました。

5. 閉会